新潟 防災ジャーナル
安全立県宣言

＜第18号＞
(財)新潟県中越大震災復興基金「震災の記憶」収集・保全事業の一環として発行されています。
主催 中越防災安全推進機構
〒940－0062
長岡市大手通2丁目2番地6
TEL・FAX0258(36)8141

ちまき作り

中越地域をめぐる、ぐるりんバスツアーでちまきを作る参加者。見よう見まねで地元のお母さんたちから作り方を教わり、和やかな笑みがこぼれた＝11月2日、長岡市中の西谷生活改善センター

手応えずしり

ルポ・ぐるりんツアー

楽しみながら防災学ぶ

中越震災から5年が過ぎ、被災地と首都圏など都市部との交流が徐々に広がり始めている。長岡市で11月、1泊2日のイベント「縁後とながらぐるりんバスツアー」があった。川口町でも10月、「防災キャンプ」が開かれた。農村交流や地域おこしを楽しみながら、防災への意識を高めてもらうのが狙いだ。

長岡市でのイベントは、同市の交流施設「多世代交流館になニナ」などが主催した。同館は「いにな～ナ」には、関東地方の36人が参加した。初日の11月21日は、楽しみつつも防災をじっくり学ぼうと、被害が大きかった同市山古志地域を訪れたのは初めて。麻希さんは「朝食と食べた非常食が意外においしかった」と話した。

ツアー2日目、同市柿尾地域の中学校を訪れた一行は、地元のお母さんたちの郷土料理に迎えられた。

ちまきづくりの教室では、千野勝子さん（79）が1時間で50個以上作れるという早業を披露。美しい三角形のちまきが次々出来上がると、歓声が上がった。ちまき作りは初めての人がほとんどで、一から教わって満足そう。

ちまき作りの後は、のっぺや地元で取れたコシヒカリを味わった。「いつも食べてるもんだけど、どこにも負けないくらいおいしいでしょ」。千野さんがおうしょに振る舞う「こっつぉ」を、笑顔の親子連れらがほお張った。

になニナのコーディネーター馬場裕子さん（40）＝同市青葉台＝は「楽しかったという声が多かった。防災のことも考えてもらえたかな」と手応えを感じる。

「ツアーをきっかけに、参加者と中越の縁ができい、大変さんは「仮設住宅で寝るのは結構きつかった。体験してみないとわからないことばかりだった」と話した。

炊き出し体験

夕飯で炊き出しを体験し豚汁を盛りつける参加者。食後に被災者の体験談も聞いた＝11月21日、長岡市千歳1の「になニ～ナ」

炊き出しを体験した。メンバーは「難民庁ではまだ少ないので、お皿自体をラップでくるんで汚さないようにしたんですよ」「地震直後は温かいものがなかなかおべられなかった」などと体験談を伝えた。宿泊先は旧教員住宅の交流館。

県外の親子連れが初めて稲刈りを楽しんだ。

東京都北区から参加した長谷川文雄さん（63）、妻の麻希さん（36）、長女美桜ちゃん1この1家3人は、中越の被災地を訪れたのは初めて。麻希さんは「震災を経験した人たちの話を聞いて、麻希さんは「震災を経験した人たちの話を聞いて、麻希さんは「震災を経験した人たちの話を聞いて、